

太田市民会館



敷地南東から望む、太田市民会館の全景(写真:小川重雄)

review

選評

典型的な地方都市郊外の、新たに公園等の整備開発が進んでゆく場所にこの建築は建っている。周辺が今後どうなっていくのか、環境がどのように変化していくかが予測しにくい状況なかで見出した建築的解決は実に的確であったように思う。

外観はまるで寡黙な抽象彫刻のようだ。周辺がどのように変化してもその存在価値を変えない「タイムレス」な雰囲気醸し出している。そして特筆すべきはこの場にずっと昔からあって、今後もあり続ける「光」をテーマにしたことだ。館内は表情豊かな多様な光が人の心理や動きを彩っており、それが人の確かな居場所を創り出している。

また「光」という建築における原初的で不変なテーマに向かうことで、この建築に永続的な信頼感を人々に与えることに成功している。さらにその信頼感を支えているのは的確な建物規模と整理されたゾーニング、動線計画であることにも注目したい。稼働率が高く多用途に使える部屋を割り出し、重複可能な位置に諸室をプランニングしている。例えば、スタジオは貸しスペースにもなったり、楽屋の延長にもなったりすることで、部屋数を抑えながら建築をコンパクトにすることを可能としている。そのことで運用上の利便性と快適性は向上し、維持管理におけるコストを抑えることにも繋がっている。また建物の表から裏にかけて、各スペースに手を抜いた部分は見受けられず、建物全体隔々まで目が行き届いた丁寧な設計、施工がなされていることが建物に信頼感と安心感を与える要因になっているのではないだろうか。コンパクトで淀みのない爽やかな空間が、この館を訪れる人、支える人にとってもいかに多くの恩恵を与えてくれるかを再認識することができる。

さらに施工が決して容易ではないこの建築を、地元の建設会社が担ったこと、そして高い技術力で実現化したことに大きな意味を見出すことができる。国内最大サイズのアルミキャストパネルの製作と設置、大面積のコンクリート打ち放



自然光が降り注ぐホワイエ

《2019年 第60回 BCS賞受賞作品》愛知県立愛知総合工科高等学校／赤坂インターシティAIR(赤坂一丁目地区第一種市街地再開発事業)／OIST 沖縄科学技術大学院大学 フェイズ1／**太田市民会館**／オーディオテクニカ本社／GINZA SIX／新発田市新庁舎／新山口駅北口駅前広場「0番線」・南北自由通路／東京ガーデンテラス紀尾井町／東京ミッドタウン日比谷／富山県美術館／ナセBA(市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリー)／HIRAKATA T-SITE／フェスティバルシティ(中之島フェスティバルタワー(東地区)、中之島フェスティバルタワー・ウエスト(西地区))／立命館大学大阪いばらきキャンパス



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2019年で60回を数えました。



建築主より
Message from Client

太田市長
清水聖義 Masayoshi Shimizu

市民が演じたい劇場・市民が観に行きたい劇場

芸術文化との触れ合い、幅広い交流の場として、太田市民会館は誕生しました。白いレンガの壁が象徴的なホールは音響性能にも優れ、劇場の至る所に光が降り注ぎ、心地よい空間が広がっています。開館以来、市民にとって鑑賞の場としてだけでなく、発表の場としても利用され、主催者から鑑賞者に至るまで多くの方々から高い評価をいただいております。昨年度は太田市美術館・図書館、そして今年度は太田市民会館で受賞できたことは誇りであり、太田の芸術文化に対する取組みが開花しつつあることを改めて実感しています。舞台芸術が人の手で作られ受け継がれてゆくと同じように、太田の文化創造の拠点として生まれたこの劇場も同じ想いでつくられています。すべての市民の記憶に残り、「何度でも来たい」と親しまれ、愛着のある場所となるよう育ててまいります。



設計者より
Message from Architect

有限会社香山壽夫建築研究所
所長

香山壽夫 Hisao Kohyama

地域の歴史と風土から、現代の建築の形態を創り出す

太田市は、関東平野の北端に位置する、古い歴史のある町です。今日残る由緒あるお寺は、この源に発しています。関東武士の発祥の地であり、戦前は日本の航空産業を先導し、それが今日の太田市の、自動車産業を始めとする諸産業の基盤となっています。

太田市民会館の敷地は、三度変わりました。コンペの時の敷地は、町の中心の域跡にあり、それが、発展しつつある郊外に移って、また二度変わりました。その度に、私達は設計を基本からやり直しましたが、それによって私達のこの地の風土と歴史に対する理解をより深め、そしてそこから導き出す現代のかたちをより鋭くすることになりました。そしてその間、私達を支えてくれたのは、市長をはじめとするこの地の多くの人々の期待と信頼の、変らない強さです。そのことに感謝しつつ、この建物が長く愛され生き続けることを願っています。



施工者より
Message from Builder

関東建設工業株式会社
本社 工事本部 作業所長

神谷大輔 Daisuke Kamiya

北関東で一番の劇場をつくる

北関東で一番の劇場をつくるという想いで、現場の作業に取り組みました。RC杉板型枠打ち出し仕上げの外壁、アルミ鋳物外壁、ホール内部の白煉瓦、音響反射板の仕上げなど、いずれもモックアップで出来映えを確認した上で施工に臨みました。

工程に大きく影響するため、効率的に作業が進められるよう仮設計画を含め検討し、鉄骨建て方及び躯体工事を中央のホールから行い、また並行して外郭のコアを施工しました。建築・電気・設備とも、地元業者が主軸のプロジェクトであり、協力業者の皆さんと意見交換をしながら、設計者からの難しい要求に前向きに検討を重ねたことが、今回の歴史あるBCS賞受賞に繋がったと考えています。

このプロジェクトに従事して頂いた全ての方に感謝し、受賞の喜びを共有したいと思います。本施設が、地域の「芸術文化の推進」の拠点になることを願っています。



1.ロビー 2.敷地東側の公開緑地と東面ファサード 3.ラウンジ 4.白煉瓦積みで包まれたホール
(1,2,4の写真：小川重雄 / 3の写真：走出直道 / (株) エスエス)

太田市民会館 計画概要	
●建築主	太田市
●設計者	(有)香山壽夫建築研究所 (有)ビー・ファーム (有)環境エンジニアリング
●施工者	関東建設工業(株)
●所在地	群馬県太田市飯塚町200-1
●竣工日	2017年2月28日
●敷地面積	12,884㎡
●建築面積	4,931㎡
●延床面積	8,473㎡
●階数	地上4階
●構造	鉄骨鉄筋コンクリート造、 鉄筋コンクリート造、鉄骨造

し、あるいはホールを彩る立体的に積まれた白い煉瓦の壁やディテールなどに、地元の建設会社の「心意気」や「誇り」のようなものを感じる。そんな人間の仕業の「尊さ」がこの建築の気持ち良さ、崇高さに繋がっているのではないかとと思う。建築主の建築や文化に対する強い思い。設計者の長年の研鑽を土台とした瑞々しい感性。そしてその思いを具現化した施工者の力量。幸福な出会いが重なり作られた寡黙で饒舌な建築。まさにBCS賞に相応しい「質」に高い評価を与えたい。

「選考委員」 後藤春彦・堀部安嗣・尾崎勝